

建設の機械化

1998.8

No.582



- ◆巻頭言 自然災害における無人化施工に望む……………柳澤栄司 1
新道路整備五箇年計画の概要……………建設省道路局 3
既設下水道管の非開削撤去埋戻し工法（TU工法）の開発と実施
……………鈴木章文・相根正和・脇登志夫 6

グラビヤ——既設下水道の非開削撤去埋戻し工法
移動式クレーンの作業中の転倒事故低減システムの開発

- 移動式クレーンの作業中の転倒事故低減システムの開発
……………小笠原保・廣末理恵・大草一昭 12
最大積載量150t大型ダンプトラック（530M）
……………大貫廣明・菅野幸夫・上原茂信 22
◆ずいそう “老計” を考える……………笠間四郎 18
◆ずいそう 「お守り」……………石黒元 20
◆平成9年度建設業界で採用した新機種
建設業界（その2）……………大森嘉朗 27
第49回日本建設機械化協会通常総会開催…………… 38
◆平成10年度社団法人日本建設機械化協会会長賞の決定
会長賞 自動化オープンケーソン工法の開発と実用化
準会長賞 鉄筋自動配列組立装置／水路インバート切削ロボットの開発
奨励賞 ファジー制御技術を採用した高所作業車の開発／車体上部が360度全回転するクローラキャリアの開発／PC板反転装置EZ転EZ転Ⅱの開発と普及／長大トンネルにおける新換気システム（先端集塵換気システム）の開発… 51
◆わが工場 南星本社工場……………城ヶ峰實 62
◆部会報告 ISO/TC 214（昇降式作業台）シカゴ国際会議……………ISO部会 66
◆部会報告 「建設環境における移動体通信の利用実態」調査報告（その3）
—電波利用の問題点と今後の課題—……………自動化委員会 69



◆新工法紹介	02-101 UPC 工法 (Underground Pile Cutting) (大成建設) /03-124 鉄骨建方新測量システム (鹿島) /04-163 トンネル工法カルバートへ PREM 工法を利用 (日本国土開発・PREM 事務局) /10-30 油圧式クローラクレーン自動運転システム (鴻池組)	調査部会	72
◆新機種紹介	調査部会	76
◆文献調査	高強度セグメント/空港誘導路の破損部を補修する—パッチング用の合材運搬にアスファルト合材加熱車を用いる—/珍しいトンネル補強計画	文献調査委員会	80
◆整備技術	最近の計測機器の紹介 (その4) —バッテリーアナライザ—	整備技術委員会	83
◆お知らせ	排出ガス対策型エンジンの認定及び排出ガス対策型建設機械の指定について (追加)/排出ガス対策型エンジン変更及び排出ガス対策型建設機械変更/低騒音型建設機械の指定について/建設業における—酸化炭素中毒予防のためのガイドラインの策定について.....		87
◆統 計	平成 10 年度建設投資見通しの概要 (補正後ベース) / 建設工事受注額・建設機械受注額の推移	調査部会	102
行事一覽		106
編集後記(一ノ宮・川崎)		110

◇表紙写真説明◇

大処理設計

フィーダ付き MRC 36 JV 三菱自走式破砕機
新キャタピラー三菱 (株)

MRC 36 JV は、今日までお客様より高い評価を得ている MRC 36 J の特長である「後方、左右の 3 方向から投入可能な大型ホッパーの採用」、 「2.5 m の高排出ベルトコンベアの採用 (4 tトラックにも二次ベルトコンベア無しで直接積込み可能)」、更に「短時間に破砕サイズを変更可能な油圧式シム調整機構の採用」等の優位点を継承し、新たに振動フィーダを装着して登場したものである。これまでの破砕効率を重視した直接投入方式に加えて、振動フィーダ装置を装着した MRC 36 JV の市場導入により、MRC シリーズのラインナップを強化した。

この振動フィーダには、原料のサイズ、岩質等に応じて自由に搬送速度を調整可能なフィーダ速度可変機構を採用し、原料の安定供給を実現している。これにより、大幅な作業効率の向上に寄与している。なお、フィーダの停止スイッチを運転席以外のホッパー付近にも設置しているため、オーバサイズの原料や破砕不可能な異物が混入した場合、即座にフィーダを停止させる機能も装備している。

＜主な仕様＞

総重量	: 26,400 kg
エンジン	: 三菱 S6K-T ディーゼルエンジン
定格出力	: 96 kW (130 PS)
破砕装置	: 36"×15" シングルトルゲルジョー
破砕能力	: 43~110 t/h
磁選機	: 標準装備